

6) マジックテーブルを利用した 車椅子の安全ベルトについて

国立療養所宇多野病院

広川 由紀子 加藤 敦子
加藤 悦子 久乗 ユウ

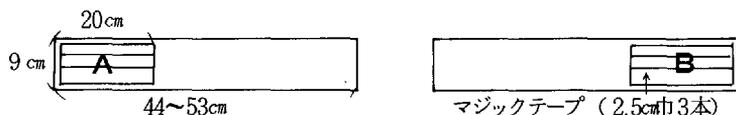
<研究目的>

病気の進行に伴い、車椅子の生活を余儀なくされたPMD症患者は、上肢の筋力も弱く車椅子の操作も症状の進行に従いむずかしい状態になっている。車椅子の安全ベルトは、患者の病状、変形を考慮し、安全性、機能性、操作性に主眼をおき三種類を試作した。

<研究方法>

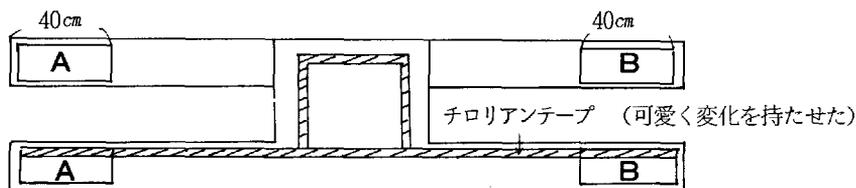
種類 I 一般用 II 胸当式 III 带状
材料 1) 帆布 2) マジックテープ 3) ナイロン糸 (ミシン用) 4) 釣糸
製作過程

I 一般用安全ベルト



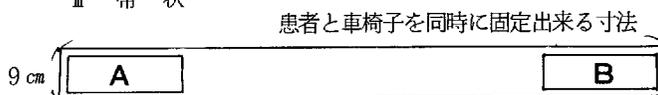
図のように出来上り寸法は、巾9 cm、長さ44 cm~53 cmとし、帆布は四つ折、マジックテープは2.5 cm巾を3本並べ接着面は20 cmとした。車椅子への装着は患者の体格に合わせ適当な巾とりを持って車椅子の折りたたみが可能な位置で取り付ける。

II 胸当式 (先天性PMD症幼児用)



変形が強度で坐位保持が不安定な幼児に使用、ベルト巾は9 cmとし、胸当ての部分は体格に見合った大きさとした。ベルトは上下二本を用い、長さは患児と車椅子を同時に固定出来る寸法とした。マジックテープの接着面は40 cmで体位によるゆとりはマジックテープにみた。

Ⅲ 帯 状



車椅子での坐位保持に独特の支持法が必要な男子に使用、ベルト巾は9 cmとし、長さは患者の要
楽な姿勢で定める。同ベルトの使用は車椅子以外に、観劇、その他臨機応度に使用している。

アンケート調査並びに考察

安全ベルト試着後一ヶ月目に患者、家族、職員を対象に、安全ベルトの安全性、機能性、操作性、
院内外の必要性についてアンケート調査を行った。結果比較的好評を得たが、まだ次のような問題
点が残されており更に改良を重ねて行く必要を感じた。

問 題 点

- 1) Iの場合 車椅子の折たたみに邪魔にならないよう取り付け位置に注意する。
- 2) Iの場合 車椅子からの取りはずしが困難である。
- 3) 白地の布を使用した為汚れが目立つ。
- 4)マジックテープの持久力の追跡調査。
- 5) 変形強度な患者の安全ベルトの工夫。

<結 果>

安全ベルトは、多くの問題点を残しながらも、患者の危険防止に努めると共に、ADLの拡大、
心理面に及ぼす好影響をみる事が出来た。又介助者の精神的、肉体的負担の軽減にも微力ながら
役立つ事が出来た。

7) P M D 症合併症予防に関する研究

国立療養所宇多野病院

渡 辺 和 代 浅 原 昭 子
布 施 耀 子

<経 過>

私共はPMD症患者の合併症中、上位をしめる上気道感染症の予防をテーマとして取り組んで
きた。前年度は上気道感染症が気象条件や外泊、面会、リクリエーション等との関連性の有無を調
査検討し、その結果これといった特異な関連性は見出せ得なかった。それにもまして上気道感染が
誘因となり重篤な呼吸不全の状態へと移行するのは肺機能の低下が大きな要因となっているもの
と思われる。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

< 研究目的 >

病気の進行に伴い、車椅子の生活を余儀なくされた PMD 症患者は、上肢の筋力も弱く車椅子の操作も症状の進行に従いむずかしい状態になっている。車椅子の安全ベルトは、患者の病状、変形を考慮し、安全性、機能性、操作性に主眼をおき三種類を試作した。